

募集人数

2名

当科の特徴

- ・ できるだけ数多くの症例数を経験していただけるように外科後期研修医の人数は2～3名に制限しています。
- ・ 外科医は、術者としていかに多くの手術を経験したかが問われます。当科で後期研修医が経験する術者としての手術件数は一人年間約250件（うち全麻150件）です。
- ・ 消化器外科（肛門科を含む）を中心に乳腺外科、呼吸器外科、血管外科の全領域をそれぞれの分野の専門医のもとで、修練を積むことができます
- ・ 定められた最短年数で外科専門医資格を取得できます。
- ・ 外科専門医取得後は各々の希望する進路に従い、できる限りのサポートをします。
- ・ 救急センターで脳外科、産科婦人科、整形外科とも密接に連携し臨床で最も求められる外科医を育成します。
- ・ 当直業務は月2回（平日1回と土、日1回）ですが、上級医が必ずサポートします。
- ・ 夏期休暇、冬期休暇はもちろん、休暇は自由に取ることが可能です。

当科での後期研修医達成目標

外科診療に必要な基礎知識を習熟し、臨床応用ができる。

1. 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟しその臨床応用ができる。
2. 消化器疾患の手術を適切に実施できる能力を習得し、その臨床応用ができる。
3. 呼吸器外科、血管外科の基本的知識と技術を習得し、その臨床応用ができる
4. 積極的な外科治療だけでなく、外科医に必要な終末期を身につける。
5. 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身に付け、患者、家族へのインフォームドコンセントが適切に行える。
6. 外科学の進歩にあわせた臨床研究発表を行う。
7. 最終的に外科専門医資格を取得する。

放射線科・内視鏡検査関連

1. 超音波検査(腹部)の実施と読影。マンモグラフィーの読影ができる
2. CT 検査の読影、CT 下穿刺ができる
3. 胃内視鏡検査、大腸内視鏡検査ができる

術前術後管理

1. 術前の栄養評価を適切に行い、必要な輸液を行える。
2. 術後輸液管理を適切に行い、必要な症例には適切な輸血を行える。
3. 高齢者、心不全患者、呼吸器合併症患者、透析患者など重篤な合併症を有する患者にも適切に対応できる。適切なタイミングで ICU 管理へ移行できる。
4. エビデンスに基づいた抗菌薬の使用ができる。

外科診療に必要な病理知識の習得

1. 消化器疾患、呼吸器疾患の良悪の鑑別ができる。
2. 悪性疾患の進行度、壁深達度の評価を適切にできる。
3. 術後の病理結果を参考に術前診断へのフィードバックが適切にできる。

外科診療に必要な栄養と代謝

患者の病態や疾患に応じた必要熱量を計算し、適切な経腸、経静脈栄養剤の投与、管理ができる。

オンコロジストとしての教育

術後の補助化学療法から再発時の治療的抗がん剤の使用をエビデンスに基づいて適切にかつ最新の医療ができる。

習得する手術手技

当科の主要疾患手術件数（2007.4.1～2008.3.31）

胃癌 47例、大腸癌 95例、食道癌 5例、膵臓癌 6例、胆管癌 3例、乳癌 55例、肝癌 7例、胆石・総胆管結石 65例（腹腔鏡下手術 54例）、ヘルニア（そけい、大腿、腹壁を含む）90例、急性虫垂炎 65例、腸閉塞 23例、肛門疾患 25例

1年目

1. 局所麻酔の腫瘍摘出術
2. 各ヘルニア根治術
3. 肛門疾患の治療
4. 虫垂切除術
5. 下肢静脈瘤ストリッピング
6. 乳癌手術
7. 緊急手術時（消化管穿孔、イレウス）
8. 胆嚢摘出術（開腹術）
9. 胃癌手術（幽門側胃切除術）
10. 結腸切除術（回盲部切除、S状結腸切除術）
11. 呼吸器外科、血管外科手術の助手

2年目-3年目(上記に加え)

1. 胃癌手術（胃全摘術）
2. 結腸切除術（右半結腸切除、左半結腸切除術）
3. 直腸癌手術
4. 胆嚢摘出術（腹腔鏡下手術）
5. 簡単な肝切除術（部分切除、外側区域切除術）

その他

1. 術前、術後カンファランスへの症例提示
2. 年2回は外科関連地方会発表、年1回は全国学会発表。
3. 年1回の論文の作成（目標）